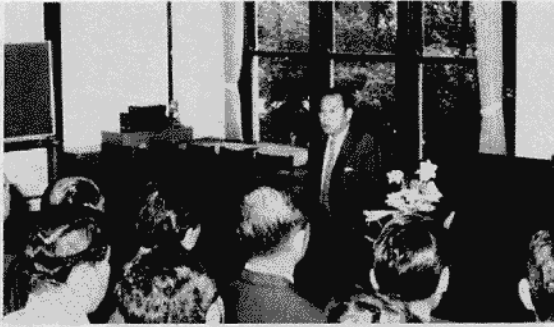


就任のごあいさつ

日光市長 斎藤善哉



現在、日光市の状況は人口減を筆頭に幾つもの問題を抱えた厳しいものです。こうしたとき、市民多数の方々のご支援によって、八月二十八日、第三代の日光市長に就任いたしました。この責任の大きき重いことを考えますとき、身



の引締る思いでいっぱいです。

昭和二十六年以来、市役所の職務を通して、市民皆様のお世話になつたご恩に答えるためにも、今までの経験を生かして、市民の声が反映される、市民本位の市政を確立したいという私の考えを一步実現するための努力をしてまいります。

言ひ古されたことかも知れませんが、基本には、正邪善悪の別をきちんとつけて、何が市民のためのものであるかと、視点を上げて見極めることから始めたいと思います。

市民本位の市政を実現するため

には、まず、市民が市政に対して何を望んでいるかを知ることでしょう。それには、市民との「対話日」を設けたいと思います。更に、各職場でご苦勞をされている方、その企業の中で創意工夫をされている方々のご意見を素直に聴いて、その考え方をよく検討して市政に反映できるように「諮問機関」の設置を図りたいと思つています。

公共施設、特に市民の利用度の高い、例えば、運動施設や市民間の交流のできる憩の場などは、適正の配置がされるような日光市の未来像をまず創ります。

市政の一つ一つが、市民の努力一つ一つが、明るい夢のある日光を造り上げることにつながるようにも努力を重ねたいと思つて、市民の皆様のご協力を心からお願いしてあいさつとします。

長い間、ご苦勞さまでした

全職員の拍手に送られて退任



8月27日、星野前市長は、市役所大会議室で職員に退任のあいさつをしたあと全職員の拍手に送られて、元気に庁舎を去られました。

市長退任にあたって

星野仁十郎



就任して以来、三期十二年間にわたり市政を担当させていただきましたが、その間、経済社会はめまぐるしく変転し、経済の高度成長期から一転して石油ショックによる経済の不安定期、低成長期を迎えるという激動する経済社会の中にあつて、市民福祉の向上と市勢進展のために最大限の努力を重ねてまいりました。

しかしながら、地方の時代に即応した諸施策の展開をはじめ、施設の充実強化にいたしましても、在任中に成し得なかつたことが多々あり、市長として皆さまの期待に充分にこたえられなかつたのではないかと痛感している次第です。

日光市が、観光都市として、また、産業都市として今後の躍進が期待されているとき、新しい市長を迎えて一段と発展することを祈念してやみません。

私も、今後は一市民として皆さまと共に、市政各般にご協力を申し上げたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

終りに、市民の皆さまのご健康とご多幸をお祈り申し上げますと共に、これまでのご協力に重ねてお礼申し上げます。退任のご挨拶といたします。

このたび、八月二十七日をもって市長の職を退任いたしました。市民の皆さまはじめ、各界各層の方々、これまでのご指導ご協力に対し深く感謝申し上げます。心からお礼を申し上げます。昭和三十四年八月二十八日、日光市長に